

あきつ

2021年7月15日発行

第 630 号

発行 / 社会福祉法人 天童会 飯野 順子

新型コロナウイルス感染症

ワクチン接種と有効性



副園長 大瀧ひとみ

新型コロナウイルスは2019年2月、中国武漢市に出現し、瞬く間に中国でアウトブレイクしました。2020年1月15日には日本国内で第一例目を確認し、1年半を迎えようとしています。この間、新型コロナウイルスは変異株となり、4回ものアウトブレイクを引き起こし私たちの生活を脅かしています。

当園において、昨年12月に職員1名、利用者4名の新型コロナウイルス感染症を発症し、小規模クラスターとなりました。感染対策には万全を期し対応していましたが、残念ながら防御することができませんでした。しかし、クラスターを最小限に封じ込めることが出来たのは、当園の日頃の感染対策への取り組みと、保健所の助言等によるものだと認識しております。感染は何度でも繰り返すことから、感染要因を明確にして、更なる感染対策を講じています。

一方でワクチン接種によるワクチン効果により、利用者や職員を新型コロナウイルス感染症から守ることが可能となりました。ワクチン接種が感染を完全に防げないわけはありませんが、米疾病対策センター(CDC)によると新型コロナウイルスの有効性は種類により異なりますが、ワクチン接種は有効に機能していることが報告されています。ワクチン接種、ワクチンの有効性、副反応について理解し新型コロナウイルス感染を防御したいと思えます。同時にワクチンの今後の動向にも注意していきたいと思えます。

(1) ワクチン接種

1. 職員への接種
1回目

・新型コロナウイルスワクチンの説明と感染対策の資料を職員に配布し知識を深める。
同時にワクチン接種の希望確認をする。
・ワクチン接種を希望しない職員にはCOVID-19である、園長の面談を実施して接種の検討を促す。

・先行接種の機会を逃さないように自分の生活環境を整え健康管理を呼びかけます。

2回目

・1回目に副反応の強い職員には、園長の面談を実施して接種の検討を促す。

2. 準備作業

・V-SYS[®]の登録による接種券付き問診票の作成と配布
・先行接種基本型接種施設との連携により、ワクチンやその他の必要備品を受け取る。

・ワクチン到着日と接種日の有効期限に合わせ接種日の設定、ワクチン保存場所の設定。

・接種人数、接種場所、問診、接種準備・接種担当者、接種後の観察経過、救急対応整備。

3. 安心・安全な接種
・先行接種における副反応の資料を配布し不安の軽減に努める。

・綿密な計画によるワクチンの無駄と混乱を防ぐ
・手技の確認。

(2) ワクチンの有効性
現在日本で承認されている新型コロナウイルスワクチンは、メッセンジャーRNA(mRNA)ワクチンであるファイザー社製とモデルナ社製、ウイルスベクターワクチンのアストラゼネカ社製の3つです。この他にウイルスベクターワクチンのシモンセンアドジソン社製の国内申請や、相換スタンパワクチンである、ババックス社製が国内で治験を始めていますが、それぞれ有効性や保存温度などが異なります。現在、国内で実際に接種しているワクチンはファイザー社製(有効性95%)とモデルナ社製(有効性94%)の2つです。

1. CDCの報告
・2回接種した人の5%は、再びこのウイルスに感染する(インフルエンザ)感染の可能性が低い。

・接種を受けていない人の重症化するリスクは、はるかに高い。

・ワクチン接種を2回完了しても、全く感染対策を怠る行動することは賢明ではない。

・収束するまで感染対策を怠らず、自分の身を守るべしとがみんもの身を守る、パニックを防ぐ事になる。

・ワクチンがどれだけの防御効果を提供するかは、周囲にいる人の接種率に依存するものではなく、自分の感染対策やウイルスの存在状況により変化するのである。

2. 「感染対策を防ぐ」ための対策

・この感染対策もそれ一つで完全に感染を防げるものではないので、複数の対策を講じ、それらを実践し、それぞれの方法が持つ弱点を補うことが大切である。

(3) 副反応

ワクチン接種後には副反応を生じることがあり、副反応を無くすることは困難です。接種によって得られる利益と副反応等のリスクを比較して接種の是非を判断します。副反応疑いの報告では、ワクチンとの関係性があるか、偶発的なものか、他の原因によるものか分からない事例も数多く報告されています。透明性向上等のため厚労省で報告事例を公表しています。当園は、職員の新型コロナウイルス先行接種を完了し、1ヶ月半を過ぎました。職員へ副反応アンケート(先行接種をされた人の調査結果を参考)を実施しましたが、副反応は先行接種をされた人の調査結果とほぼ同様の結果となり、今のところ特別な事例は報告されておりません。高齢の利用者も2回目を終え、特変なく経過しております。その他の利用者は1回目から7月の半ばに予定されております。職員の副反応結果を参考に利用者への経過観察を十分に行い、対処したいと考えております。

(4) 終わりに

新型コロナウイルスは次々と変異し、度重なる流行をもたらし、私たちの生活に支障をきたし、今も尚警戒が続いています。その中、ワクチンに1つの希望を抱き、収束への期待を抱き、この困難ともいえるウイルス災害に立ち向かっています。重症心身障害児・者施設に就業している職員は厳しい感染対策や生活の自粛で疲弊していますが、強い精神力で1日も早く収束が迎えられるよう数々の感染対策を怠りず頑張っています。

* COVID-19(新型コロナウイルス)
感染経路や感染制御(院内感染対策を専門に取り扱う医療従事者専門診療科)の名称はV-SYS

ワクチンの接種実績や在庫量、情報伝達・共有を促すためのシステム





👤 こんにちは働く人シリーズその7。今回は「リハビリテーション室」においでなさいました。この間についてみましょう。

👤 職員数や勤務体系を教えてください。
 👤 理学療法士6名、作業療法士3名、言語聴覚士3名の計12名が日勤で勤務しています。

👤 それでは仕事の内容を教えてください。
 訓練は医師の指示の下、行われますので、医師が、訓練が必要と判断した場合に依頼があり、介入します。利用者の呼吸、運動、嚥下などの身体や、コミュニケーションなどの認知機能を評価し、それらの機能の維持、向上をするために必要な訓練を行います。1回の訓練は40分〜60分です。本人の体や機能に合った車椅子の製作も行っています。

👤 どんな時にどんな訓練をするのか。
 利用者が「呼吸が苦しい」「体が動かない」「飲み込みが苦手」「気持ちよくない」など日常生活を送る上で困ったことが生じた際や、「どうしてか」ということを知りたいなど新しいことを導入する際に行います。また成長期の方には成長を促す目的でも行います。

👤 これまでのどんな成果(結果)がありましたか。
 訓練を通じて、できないことを何度も繰り返し練習して、努力して…というイメージを持たれる方も多いため

👤 思いですが、「どうやって見たらいいですか」などの提案をして、利用者自身ができるようサポートする、という方がイメージとして近いです。

👤 例え、手を使って遊ぶことが少なくなると利用者には訓練をするつもりです。手を使うように繰り返し練習をする…のではなく、まず「なぜ手を使わないのか？」を考えます。背中が丸くなると、手で身体を支えないと頭が起り、頭が下がって、姿勢も保てない。↓手で身体を支えなくても頭をあげられる姿勢を提案する。↓結果、手が自由になり手で遊ぶことができた。

👤 このように、本人の「困り感」ややりたいことを身体機能面からサポートできれば成果といえるかもしれませんね。あくまで提案ですから、「その支え方は嫌です」と断られてしまうこともあります。その時に、「ではこちらはどうでしょう」と新たな提案ができるよう、アイデアは沢山持つておく必要がありますね。

👤 手を使わないことにより、飽きやすくなる、興味を持てなくなる、目を使わなくなる、日中傾眠傾向となる…など、手を使わないというだけで精神面の様々な問題が起きてくる場合があります。このような二次的な問題が起る事も想定しアプローチをしていくことが大事です。

👤 紙面にいくつか写真がありますが、すべて手を使っている活動です。これらの活動風景は利用者自身が「できたー!」と思った(あるいは)瞬間を捉えています。このような場面がたくく見られるといいな、と思います。



「出来た!」この瞬間を目標に励んでいます。



👤 そのような訓練をするうえで大変なことはありますか？

👤 関わり方や介助の仕方なども重要ですが、その土台となる評価が最も重要で、難しい部分だと感じています。問題を改善するためには、「なぜその問題が起っているのか」を明らかにする必要があります。仮説を立て検証する作業を繰り返す。そんなところが大変といえるかもしれませんね。

👤 訓練をするうえで気を付けていることはありますか？

👤 評価の大切さは先程述べた通りですが、その評価の際は、普段の様子をみている看護課、支援課、同じ利用者を担当している別のリハビリテーションスタッフなどからの情報も重要です。例えば、「最近車椅子のクッションの同じところがぼろぼろ」といった些細な情報でも、身体の評価へとつながることがあります。同じようなことがぼろぼろ

👤 ↓毎日同じ場所を擦り付けている→座る姿勢が変化している…といった具合です。利用者の状態を的確に判断するために、多角的に見ることが、独りよがりの評価にならないことを心がけています。

👤 職員同士の連携について教えてください。

👤 リハビリテーションスタッフは人数が限られているため、利用者1名に対する訓練頻度は週1〜2回です。その中で、訓練効果を高めることは難しいです。日々の生活の中でも取り組んでいくと相乗的に効果がでることが多いので、利用者の機能を維持するためには、病棟スタッフと協力して活動を展開していくことが必要であり、協力していただいています。

👤 これからの課題はありますか？

👤 以前はグループ活動を行っていましたが、「口ナ禍」ということもあり現在は中止しています。グループ活動は、「相手と自分」の関係から「集団の中の自分」という関係に変わります。この環境の変化が、利用者自身の表現方法の変化へつながり、コミュニケーションが変わる場面を幾度か見えてきました。気持ちや思いを伝えることは、情緒の安定につながります。このような場面も提供していきたいと考えています。

👤 よく観察し、情報を共有することが大切だと思います。これからますますの提案を出して欲しいですね。

👤 今日はあきつがいろいろありました。



1棟 ドライブ取り組み・誕生会・散歩
還暦祝い・お楽しみ会・入学祝い

(お楽しみ会コメ)
みんなで楽しくお店作りをしました。



2棟 散歩・ケーキ作り・体操会

(体操会コメ) 音楽に合わせて
みんなで体を動かしました。
(ケーキ作り) 自由にトッピング
したケーキを食べました。



3棟 運動月間・散歩・料理教室

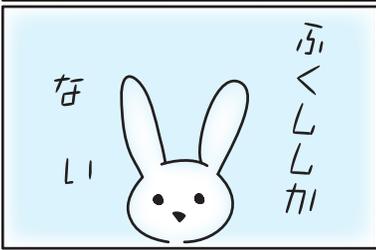
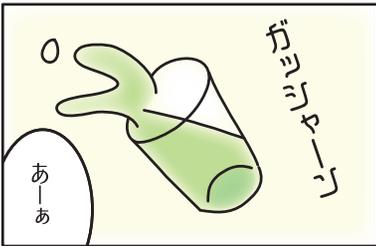
(コメ) 今年の運動会は「運動月間」に
形を変えて行いました。お散歩ではアジサイを目で、
料理教室ではオリジナルの
ケーキを作りました。

4棟 運動会・園外散歩

(運動会コメ)
2日間に分けて運動会を行いました。
「サザエさん」ダンスや玉入れ、リレー
もしました。みんな頑張っている姿が
印象に残りました。



100日後に就職するうさぎ 第4話 作・早川里英



競技の様子はプロジエクターを使って競技のない時間に鑑賞したりと一体感を感じられるように工夫しました。次年度に向け、より楽しめる運動会を話し合っていきたいと思えます。(松崎)

今年度は6月の3週目と4週目を運動会週間とし、利用者の登園日に合わせて一日数名ずつ上下階で競技を行いました。吊るしたカップやたるませた紙にオセロを10枚入れ、利用者の機能に応じて引張る、投げる、揺らすなど持ち手や紐の長さを替えて落とします。落としたオセロの白の面の数を競って勝敗を決めます。どの利用者も練習の成果を発揮し、オセロを落とすしていきます。競技の途中経過をスピーカーを使いリアルタイムで報告し、一喜一憂。2週にわたって行われた運動会は赤組の勝利で幕を閉じました。

運動会

通園センター

マウスを作りました

講師の方をお招きして改造マウスを作ってみました。外部スイッチをマウスに接続できるようにすることで、マウス操作が困難であっても得意な動きでパソコンのクリック操作をすることが出来ます。マウスとリード線、ボックス型ミニジャックと少しの道具があれば作れます。少し時間は掛かりましたが丁寧に教えて頂き1時間ほどで完成しました。iPadに繋いで動作確認。利用者が自分の意志で決定ボタンを押せる機会を増やせるようになると良いです。(齋藤)

梅の収穫

今年も梅の木に梅がたくさん実りました！天気の良い日職員と一緒に梅を収穫しました。いちみツ漬けにします。



この梅の木は、Kさんが20歳の時にお父様が植えられました。園舎建替え時には移植しましたが、未だにたくさんの実を付けてくれます。梅の木は今年45歳です。

古い写真や文献の中から、もう一度見ておきたい、読んでおきたいものを掲載します。

秋津アーカイブス

現任研修「あきつ」を支えるもの・財政面を中心としてから抜粋。

「あきつ」を支えるもの 草野 熊吉

創立当初の経営の苦しい時代、職員の給料も遅れがちだった時代もあった。

今、園に居てくれる人は、まさか夜逃げを考える人はいないと思うが、最初の頃は夜逃げした人も何人か居た。

朝、出勤時間になっても起きてこない。宿舎に行ってみると部屋はカラッポで、何時に出たか分からないかった。

手紙を置いて日く「月給も貰えないのは兎も角として、これでは生活ができない。」といったような手紙を置いて居なくなつた人も何人かあった。

それを切り抜けてずつと時代と共に来た。病院としての医療収入だけで、当時、健保は3割、国保は5割の自己負担があつたので、これを支払えない家庭もあつて、それが園の経済にも影響したし、園児の家庭も大変だった。

その後、昭和42年になって法律が出来「措置費」という国からの委託費が受けられることになった。

(昭和61年8月発行「あきつ24号」より)

*現在と表現方法が異なる部分がありますが、原文のまま掲載しました

ご寄付 よつばの会様、飯野順子様、山本織子様、日本キリスト教団 目白教会様、田頭晋一様、岡田生樹様、株式会社フチガミ様、片寄喜代子様、ひかり幼稚園若草会様、大塚茂様、武田薬品工業株式会社様、八百忠様、野瀬和子様、里見芳子様、牧田勢津子様、和田真様、西田奈々様、東村山市社会福祉協議会様 皆様方の温かい御支援と御協力に、心より厚く御礼申し上げます。 社会福祉法人 天童会

編集後記 今号もコロナウイルス感染症の記事を掲載することとなりました。読んでいただければ幸いです。さて、先日すてきなご寄付を頂きました。大小のタオルが計21枚と手紙が添えられていました。「暑い日が続いておりますが、ご健勝のことと存じます。タオルを寄付させていただきます。少しでもお役に立てたら嬉しいです。時節柄ご自愛くださいませ。〇〇〇〇(15歳)」なんとも嬉しいですね。日本の未来は明るい。そして、もうすぐオリンピック・パラリンピック開幕です。素晴らしい演技でコロナを吹き飛ばし欲しいですね。(池田 雄)

あきつ 第630号 E-mail: jimukyoku@tendoukai.net HP: http://www.tendoukai.jp 発行人/飯野順子 発行/年4回1・4・7・10月発行

